

ペテロの否認を予告／場所を備えに行く

ヨハネ福音書13:36-14:3

【新改訳 2017】

- 13:36 シモン・ペテロがイエスに言った。「主よ、どこにおいでになるのですか。」イエスは答えられた。「わたしが行くところに、あなたは今ついて来ることができません。しかし後にはついて来ます。」
- 13:37 ペテロはイエスに言った。「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら、いのちも捨てます。」
- 13:38 イエスは答えられた。「わたしのためにいのちも捨てるのですか。まことに、まことに、あなたに言います。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」
- 14:1 「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」
- 14:2 わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。
- 14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

【祈りながら考えよう】

- (1) 「主のためなら、いのちも捨てます」と言うペテロは何が問題でしたか。何が欠けていましたか。
- (2) 「あなたがたのために場所を用意しに行く」とは具体的にどういう意味ですか。
- (3) 「また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます」とはいつのことを語られたのですか。

【解 説】

(1) 主よ、どこにおいでになるのですか

33節で「子どもたちよ、わたしはもう少しの間あなたがたとともにいます。あなたがたはわたしを捜すことになります。ユダヤ人たちに言ったように、今あなたがたにも言います。わたしが行くところに、あなたがたは来ることができません。」と話されたことで、シモン・ペテロは心配して尋ねた。「主よ、どこにおいでになるのですか」と。

イエスがどこか地上の旅に出かけられると思ったので、なぜ自分がついて行けないのかわからなかったのである。主が「ご自分は捕らえられ十字架につけられ死ななければならない」と繰り返して語られたことばを、弟子たちは全く理解していなかった。

(2) あなたのためなら、いのちも捨てます

ペテロは、「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたが行こうとしておられる場所は、いったいどこにあるのですか。私はあなたを深く愛し、あなたを離れまいと心に決めています。ですから、あなたと別れなければならぬくらいなら、私のいのちを捨てるだけの覚悟ができています」と言った。

ペテロは、献身と熱情をもって、主のためにはいのちをも捨てる決意を表明した。自分の力で殉教にも耐えることができる、と思ったのである。

(3) あなたは三度わたしを知らないと言います

イエスは答えられた。「わたしのためにいのちも捨てるのですか。まことに、まことに、あなたに言います。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」(38節)

主の言おうとしておられることは、次の通りだと思われる。

「わたしのためにはいのちを捨てる」と言うのですか。あなたは自分の弱さ、もろさをわずかしか知っていません。まことに、あなたに告げます。この夜に、鶏が鳴く前、日の出前に、あなたは、三度わたしを知らないと言うでしょう。いのちを捨てるなどと言ったこととは掛け離れて、あなたは、わたしとはなんの関係もないと臆病にも言い立てて、自分のいのちを救おうとするでしょう。」

私たちも注意しよう。ペテロのような熱情を持った信仰者が、あれほどすぐに墮落するとは、なんとあり得ないことに思えたことだろう。しかし、主はそれをすべて予見しておられた。

(4) あなたがたは心を騒がせてはなりません

「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」(14章1節)

13章の終わりや14章の初めには何の中断もない。主は、最後の晩餐とユダの退去の後で11人の忠実な弟子たちを前

にして、説教を続けておられるところなのである。

主が弟子たちに対して、「わたしが行くところに、あなたは今ついて来ることができません」とか、「わたしが行くところに、あなたがたは来ることができません」と言われたものだから、弟子たちは心配して、「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら、いのちも捨てます」とペテロが代表して答えると、主はさらに厳しいことを言われた。

「わたしのためにいのちも捨てるのですか。まことに、まことに、あなたに言います。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」と言われたことから、弟子たちはますます心が平安でなくなった。

今まで3年余りの間、主について来た自分たちは、これから先どうなってしまうのだろうという不安が、彼らの心の中を占めていたと思われる。

慈悲深い彼らの主なるお方は、これをご覧になった。そして、彼らに励ましを与えた。心を騒がせずにはいられない時、その最も良い解決を、主はここで教えておられる。「神を信じ、またわたしを信じなさい。」

自分が当面している問題に向き合わなければならない時、自分ひとりで解決しようとするのであれば、不安である。しかし、主が私たちに代わって対峙して下さる。その主に信頼し、主に身を寄せなさいと、主は語っておられる。

日ごろ主に信頼している人も、もう一度この原点に帰る時、心の中から不安は消えてゆく。これこそあらゆる問題の解決の原点である。

(5) あなたがたのために場所を用意しに行く2つの意味

わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。(2節)

「父の家」とは天の住まいを指す。「住む所」と訳された言葉は文字どおりには「居住する場所」という意味である。弟子たちは地上で主から離されてひとりになるかもしれない。彼らはユダヤ教の教会から追い出され、地上では安息の場、逃れ場を見出すことがないかもしれない。

しかし、天の父の家にはいつでも彼らのために十分な部屋があり、決して追い出されることのない家がある。「恐れてはならない。父の家には十分な部屋がある」というのである。

「あなたがたのために場所を用意しに行く」ということばには2つの意味が考えられる。

第一に、主イエスはご自分の民に場所を備えるため、カルバリに行かれた。信じる者が天に場所を確約されたのは、主の十字架の贖いの死による。

しかし、それにとどまらず、主は場所を用意しに天に戻って行かれた。父の家について私たちの知っていることはわずかであるが、ここで主が教えておられることは、そこは、ある功績のあった人、特別に主と教会のために尽くした人だけが入れる所ではなく、今心を騒がせている弱い信者たちも、ひとたび主の十字架の血によって贖っていただいた者は、すべて入れていただくことができる。主は「あなたがたのために場所を用意しに行く」と言われた。

(6) あなたがたをわたしのもとに迎えます

わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。(3節)

この3節は主がまた「空中に」再臨される時のことを指していると思われる(W・マクドナルド)。その時、信仰を持って死んだ人々はよみがえり、生きている者は変えられ、贖われた群れは天のふるさとへ連れて行かれる。

- ◎「すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。」(Iテサロニケ4:16-17)

キリストの願いは、ご自分のものを永遠にみそばに置かれることである(ヨハネ17:24/わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください)。

「天の父の家」は、主が私たちのために用意して下さる所であり、そこは、主と共にいる所である。どんなに天の御国が光り輝く所であり、快適な暮らしであったとしても、主がおられないのであれば、それはじきに飽きてしまう。たとい快適な場所であっても、人間はそういう所を永遠に住まいとしたら、必ず退屈してしまう。そして今度は、もっと粗末でも、目先の変った生活を望むようになってしまう。

しかし、主が共にいて下さる所であれば飽きることはない。私たちの魂は、場所や環境の快適さによって満足するのではない。私たちの魂を満足させて下さるのは主ご自身である。

そして主は、天に帰られた後、私たちをそこに迎えるためにまた来て下さる。それは、主がもう一度来られる再臨の時であるかもしれないし、また、私たちのこの世の人生が終わる死の時であるかもしれない。

いずれにせよ、主は私たちを天の御国に導いて下さるために、もう一度来て下さる。だから、私たちは心を騒がせる必要がない。心を騒がせるようなことが起こったなら、もっと徹底して信じること、すべてを挙げて信頼すること、もっと完全に寄り掛かることである。「神を信じ、またわたしを信じなさい」これが、処方箋である。